

まつさか患者クラブ～MYC～ 市長への提案

氏名 山田 瑛一朗

私が感じる松阪の魅力もしくは課題

魅力：新しいものを進んで取り入れる、商人気質のDNA

課題：①医師間ネットワークが三重県内留まりであること

②認知症患者の増加

③既存サービスの認知度が低い

私はこんな10年後の松阪に住みたい

高齢者における、要支援・要介護認定者割合 全国最低の都市

それに向けて提案します。

①市によるセカンドオピニオンネットワークの構築

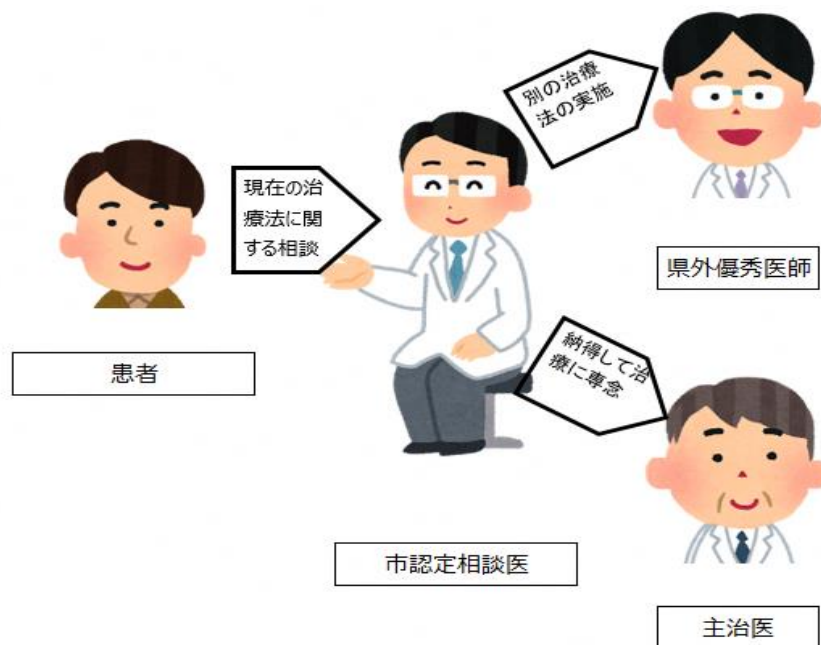
- ・分野ごとに専門相談医を市が選定

市内の開業・勤務医から募り、無償でセカンドオピニオン相談を行うもの。

県外医療機関とのネットワークは、行政主導で拡大していく。

- ・一般的なセカンドオピニオン外来は主治医返しが原則。

また、専門医に当たれないことも多い。1時間1万円～とコストも高い。



特に、大腸がんや乳がん治療だと、外科手術の実施により人工肛門や切除となる可能性が高いため、今後のQOLに多大な影響を与える。自身の納得した治療に当たるということが肝要となるため、市民の治療選択に大きなメリットをもたらすと思料。

②65歳以上を対象とした、無償でのMCIチェックテスト実施。(はるる等で実施)

- MCI (Mild Cognitive Impairment 軽度認知障害) を判定。

テストは簡単なもの。

- i. 10個程度のキーワードを読み上げ、被験者に復唱させる。
順番に、正確に、キーワードを読み上げてもらう 作業を数回行う。
- ii. 動物を3種類挙げ、仲間外れと思うものを問う。10回程度行う。
- iii. iのキーワードを再度読み上げてもらう。

認知症の前段階から治療を促進し、認知症発症を防ぐ。

認知症は、発症して以降は、治療を行っても悪化の一途であるが、

MCIの段階であれば治療が有効であり、発症を防げることが医学的にわかっている。

2025年、高齢者のうち認知症患者は5人に1人になると言われている。

行政サービスの運営、福祉人材の不足、徘徊による警察出動の機会減少など、認知症の撲滅は、社会的な意義が大きいものと思料。

③救急相談ダイヤル24 圧着カードを送付し、利用者数の拡大

市の刊行物などに同封させ、番号が記入されたカードと案内文書を配布。

いつでも、どこでも 利用できることを再度PRし、認知度向上をはかるもの。

最後に

別テーマですが…

津波の高さを視覚的に伝えることに大きな意味があると考える。

海拔を表記、看板の設置等など伝達方法はあると思うが、視覚的なインパクトがあるべき。地域の予想津波高位を電柱に色塗りすることで、市民の危機意識を育むことができるのでは。

以上